

佳作

たくさん流した涙はいつか成功に繋がる

長野県 長野市立青木島小学校六年 小林 泉月

「前に進むのが難しい。無理？諦めるの？一人ぼっちで、悩んだり、苦しんだり。でも、僕も同じだよ」。私はこの言葉を聞いて、改めて自分のことを見つめました。この言葉は、二〇一三年の二十四時間テレビで耳の不自由な子達とタップダンスを挑戦することになった、嵐の松本潤さんが手話で表した気持ちです。

三十三名の子にゆずさんの虹という曲をなぜ選んだのか、詩から感じた思いを松本潤さんがそれぞれ壁はあるけど、決して諦めない気持ちをお手話で表してほしいと伝えました。この言葉にはまだ続きがあります。

「みんな同じ。それを乗り越えるのは自分自身を変える。勇気を持って、前に進む。苦しみを越えて、悩みを越えて、不安を越えて。たくさん流した

涙はいつか必ず、成功に繋がると僕は信じてる。」
三十三人、全員の呼吸を合わせて行なわなければならぬ。

「高い人は低い人に合わせる気持ちで。」

そう松本潤さんが言っても伝わらなくて、上手く行かない……。三十三名の子供達からは笑顔が消えていき、「私なんか、居ない方が良くないんじゃないか？」そう思い始める子供達。

そんな子供達に松本潤さんが手話で気持ちを伝えました、私の目から涙が流れた記憶があります。

そして武道館でのタップダンスの披露。

私はそのパフォーマンスを見て、すごいなあと心底思いました。全員の呼吸が合わず、諦めかけていたり、自分を責めて、悩んで、苦しんで……。そんな時、松本潤さんが思いを三十三名の子供達に伝え、おそらく最初は、一人のアイドルと、三十三名の子供達と、それを演出するスタッフという関係から、三十四名のダンサーと支えるスタッフという、一つのチームになり、あの素晴らしいパフォーマンスになったのだと私は思いました。

このパフォーマンスを見て、何度も感動をしました。そして沢山勇気を貰いました。きっと、私の他

にもパフォーマンスを見て、勇気が出た人が沢山いるのではないでしょう。

私は辛くなった時、このパフォーマンスをもう一度見たり、松本潤さんが手話で伝えた思いを思い出して勇気を貰います。

最初に書いた「前に進むのが難しい。無理？諦めるの？一人ぼっちで、悩んだり、苦しんだり。でも、僕も同じだよ」という言葉。

悩んだり、苦しんだりしているのは自分だけではない。みんなそれぞれの壁があって、その壁を人それぞれに乗り越えようと努力している。そして、その壁を乗り越えた時、その努力が成功に繋がる……。私はそう信じて日々を過ごしています。それぞれの壁を乗り越えて、明日へと羽ばたきましょう！